

天オレスラー
井上京子

井上京子

(いのうえ・きょうこ)

1969年4月22日生まれ、山形県南陽市出身。
プロレスラー。

1988年10月10日、全日本女子プロレスでの井上貴子戦でデビュー。ヒールでありながら反則行為を行わず、持ち前のパワーとテクニック、身体能力で、華麗なファイトスタイルを披露して一世を風靡する。1997年にはオールパンフック、IWA世界女子、WWWA世界シングルを同時に保持する女子初の三冠王者になる。そして1989年のレスリング全日本女子選手権に出場して優勝、1998年11月にもバリンヤー・ジャルーンボンと異種格闘技戦を行なうなど、他のジャンルにおいてもプロレスラーの強さを誇示してみせた。いまでも世界中のプロレスファンから愛されている伝説の女である。

「あの頃は小さな町民体育館でも東京ドームでも同じレベルの試合をしたよ。沢田研二に聞かせたい(笑)」(京子)

玉袋 ガンツ！ 今日の媒体はなんだ、『レディース・ゴング』か？

椎名 いや、『デラックスプロレス』かもしれない(笑)。

玉袋 そうだな。レディゴンかデラプロだろうな。どっちでもいいや、今日はママと飲めるのがうれしいんだから！

京子 「ママ」って呼んでくれるんだ(笑)。

玉袋 ママだよ、ママ。京子ママだもん。

ガンツ というわけで本日の変態座談会は、井上京子さんのお店『あかゆ』で行わせていただきます！

玉袋 いやー、今日はこうやって京子ちゃんと仕事できるのがうれしいよ、俺は！

京子 何を言ってるの。よく言うよ(笑)。

玉袋 いや、ホントホント。京子ちゃん相手だから、今日は最初からトップスピートでいこうと思って下地〃を入れてきたら、飲みすぎてすでに酔っ払ってるから！

京子 それは私も一緒。きのう、お店から家までの記憶がなくて、まだお酒が残ってるんだから。

玉袋 いいんだよ。記憶なんかなくしたほうがいいんだから。

椎名 忘れてしまいたいことがある(笑)。

京子 じゃあ、きのうの延長でシャンパン飲んじやおうか！

玉袋 いきなりシャンパン抜いちやうってよ！ やっぱもてなし方が違うね。

京子 今日は京子ちゃんと玉ちゃんのひさしぶりの再会と、私のデビュー30周年のお祝いだから、焼酎もおごっちゃうよ。お代はカラダで払ってもらうから大丈夫（笑）。

玉袋 これは大変だぞ。寝かしてもらえねえよ！

椎名 でも1対3ですからね（笑）。

玉袋 そうだな。猪木とはぐれ国際軍団ばりのね。

ガンツ では、あらためましてデビュー30周年おめでとうございます！ 乾杯！

京子 イエーイ！ カンパーイ！

玉袋 いやあ、どんどんないいオンナを出してるよな。

京子 なに、どうしたの？ 今日抱く？（笑）。

玉袋 抱いてください！（笑）。でも30年間やってるっていうのは凄いな！

京子 ヤバイよね。いま48歳なんだけど、人生の3分の2近くはやってるんだもん。

玉袋 で、俺らはその30年前から観てるんだから！

京子 ホントに？ 全女の頃から知ってるってこと？

椎名 そりやそうですよ！

ガンツ 新人時代、ほんの一瞬だけ使ったリングネーム「アダモ井上」の頃から観てますから（笑）。



京子 すごーい。超機嫌よくなった、私。ヤバーイ(笑)。

玉袋 でも、よく30年も続けたね。なんでできたんだろう？

京子 なんてだろうね。気づいたら30年やってるんだもんね。

ガンツ しかもイチから自分で団体まで作っちゃって。

京子 そうだよ。『平成の借金王』って言われてるんじゃないの、私。

玉袋 まあ、お金のやりとり云々っていうのはさ、ママがお店を早い時期からやってわかってたじゃない。だから『目黒』の放蕩経営にも相当早い段階で気づいたんだと思うよ。

京子 いやいや、逆。それに気づくのが遅かったから、店で稼がなきゃいけなくなったんだから。全女の最後の頃は7カ月も給料をもらってなくて、8カ月目に「あれ、おかしいな？ 給料っていつも

らってるの?」ってことに気づいて。下のコに「京子さん、何を言ってるんですか。みんな給料をもらってないですよ。もう限界です」って言われて「もう、早く言つてよ!」って。

玉袋 半年間、無収入に気づかぬえっていうのも凄いね(笑)。

京子 だから下のコが言わなかったらずっと気づいてないわけ。

椎名 預金通帳は見ないんですか?

京子 見たことなんか無いわよ!

玉袋 カッコいいねえ(笑)。

京子 通帳の記帳もいまはやるけど、あの頃は1年に1回くらいしか銀行に行くこともないから。
ガンツ ずっと旅に出てるわけでもんね。

京子 そう。お金がいくら貯まってるのかもわかってないわけじゃん。

玉袋 俺たちはそういう全女のレスラーたちに生活も含めて魅せられてきたからね。旅から旅の生活の中で、今日も日本のどこかで京子ちゃんハツラツなプロレスを見せてくれてるっていうさ。

京子 でも、クラッシュ(ギャルズ)さんが引退されたあととか、お客さんが10人しかいない時期もあったじゃないですか。私は凄いいよかった時期と、凄い悪かった時期の両方を知ってるから、「今日、お客さんが10人だったよ」とか「あれ、給料まだ出てないよ」っていうときでも、選んでどこの会場でも一生懸命にやるのよ。

椎名 沢田研二に聞かせてあげたいですね(笑)。

京子 ちょっと待って、いまその話をしようと思ったのに！（笑）。

ガンツ ダハハハ！ オチを先に言った（笑）。

椎名 ごめんなさうい！（笑）。

京子 ホントひどい（笑）。でもそうなんですよ。まさに先週そんな話をして。ウチにチャパリータASARIがお手伝いに来てくれてるんですけど、「あの頃は小さな町民体育館でも東京ドームでも同じレベルの試合をしてたよね」って話をしてたら、「沢田研二に聞かせたい」って同じことを言ってたよ！（笑）。

玉袋 ママ、やっぱりそれが全女の魅力だったんだよ。東京ドームから駐車場の特設リングまで、どこでも最高のプロレスを見せてくれるっていうね。

京子 それは私だけじゃない。みんな凄いなだと思う。だってケガしてでも何をしてでも手を抜かないからね。

玉袋 でも、そういう中でも京子ちゃんがすげえのっていうのはさ……。

京子 なに、もっと褒めてよく（笑）。

玉袋 全女っていうのは要はオンナの嫉妬の世界じゃん。すげえ縦社会でもあるしね。その中で京子ちゃんは、なんで新人の頃からあのハツラツとしたプロレスで、ちょっとほかにはいないスタイルで出てこられたのかなって。

京子 あれは逆に認められてなかったの。松永（高司会長）さんから「おまえは女子プロじゃない。おまえのプロレスは違う」ってずっと言われ続けていて。

ガンツ いわゆる女子プロレスではなく、男子のプロレスに近い、京子さんのオリジナルだったわけですよ。

京子 そう。だから「そのスタイルをやめろ」ってずっと言われていて。だから私はずっと会社から嫌われていて、いいポジションにつかせてもらえなかった。でも会場に行けば「京子！京子！」ってファンのコが言ってくれて、「なに、この人って人気あるの？」みたいな。だから私じゃなくてファンがそうさせてくれたというか。会社も認めざるを得なくなったの。

玉袋 それ最高じゃん！

「京子さんのお父さんはスキンヘッドで、
もう見た目からして絶倫なんですよね（笑）」（ガンツ）

京子 でもね、いま考えると若い頃の私はホントに性格悪かったなって。自分を「世界一強いオンナ」って思ってる時期がやっぱりあったもん。「おまえら、かかってこんかい！」みたいな時期が。

椎名 それは（ブル）中野さんやアジャ様にも？

京子 もちろん中野さんもアジャさんも強いし、尊敬してるけど、私は世界一強いオンナになんたくてプロレスラーになってるから、そこがみんなとはスタートが違うわけじゃん。みんなは「クラッシュギヤルズに憧れて」とか、そういう理由で入ってきてるけど、私は女子プロレスラーの

名前なんか誰も知らなかったもん。

玉袋 山形じやテレビでやってねえし（笑）。

京子 んだんだ（笑）。当時は民放2局だからやってないわけ。クラッシュギヤルズさんは歌番組とかでしか観たことなかった。みんなとスタートが全然違うから、「なんか、やだ〜」みたいな（笑）。

ガンツ でも、先輩って「自分はファンです」っていうコをかわいがるわけじゃないですか？

京子 そこのよ！「ああ、私のファンで入ってきたんだ」って感じだったらかわいいじゃん。でも私は誰もいないから、「どうしたらいいのかな？」って。

玉袋 それは聞かれるの？

京子 聞かれます。「誰を目標にして入ってきたの？」みたいな感じで。たとえば（井上）貴子だったら立野記代さんなので、立野さんにかわいがられるし。あとはほとんどみんな長与千種さんで、長与さんの周りにわーっと集まってて。

椎名 京子さんはなんと言ったんですか？

京子 名前を知ってたのがライオネス飛鳥さんぐらいだったんで、「飛鳥さん」って答えました。でも家も近かったから、飛鳥さんにはプロレスを辞めてからもずっと仲良くさせていただいてるんです。

椎名 強い者同士ですね。京子さんは全女に入る前から強かったんですか？

京子 強かった。私、初めて男にケンカで負けたのが小6だったの。

椎名 えーっ!? 女と男がケンカしてるのなんか1回も見たことないですよ(笑)。

京子 小学生ぐらいまで女の子のほうが成長早いから大きいじゃないですか。だからそれまで全部勝ってたのに初めて負けて、それから「男と女は違うんだな」って悟って、「だったら世界一強いオンナになりたい!」って思ったの。街を歩いて肩がぶつかったとき、「おい!」って言われても絶対に勝てるようなオンナになりたいって。

ガンツ プロレスはその強くなりたい延長線上なんですか?

京子 そうなの。私は小さい頃から砲丸投げをやってて。ある日、起きたら枕元に砲丸があつて、ウチのパパから「おまえは明日からこれを投げろ!」って言われて。そこから私の砲丸人生が始まって。

椎名 パパも投てきの選手なんですか?

京子 全然違うの。でも幼稚園くらいから腹筋、背筋、スクワット、腕立ては毎日100回ずつやらなきゃいけないくて、学校に行くときも力カトをつけずにつま先で行かなきゃいけないとか、独特の井上家のルールがあつて。

玉袋 山形の星一徹だよ!(笑)。

ガンツ お父さんも地域では有名人なんですよね?

京子 そうそう。飲みもハンパなくて、一晩に7軒くらいハシゴするから。次の日にウチのママが、パパが行つてそうな店に行つて、「きのう、うちの夫、来ましたか?」って一軒ずつお金を払つていくみたいなの。だからパパが亡くなったときも「あの町の葬式であんなに人が並んだのは見